



たてやま おらがんまつち



ひがし ふじ ぐみ 館山市那古地区 東藤組

那古地区は館山市の北部に位置し、北半分が山地で南半分が平地になっています。昔から那古寺の「門前町」として栄え、また、船形地区とともに房州うちわの生産地として全国に知られています。西側には那古海岸があり、まちの中央には国道が通っています。那古山の林は、今でも自然がたくさん残っていて、市の指定天然記念物になっています。山一面にスダジイの大き木が茂り、山頂には和泉式部の墓と伝えられている塚があります。山頂からは鏡ヶ浦を囲む市街や対岸の三浦半島や伊豆半島、富士山も見渡すことができます。

地域の紹介



いつの時代も那古地区の人々の中心にある
補陀洛山那古寺観音堂

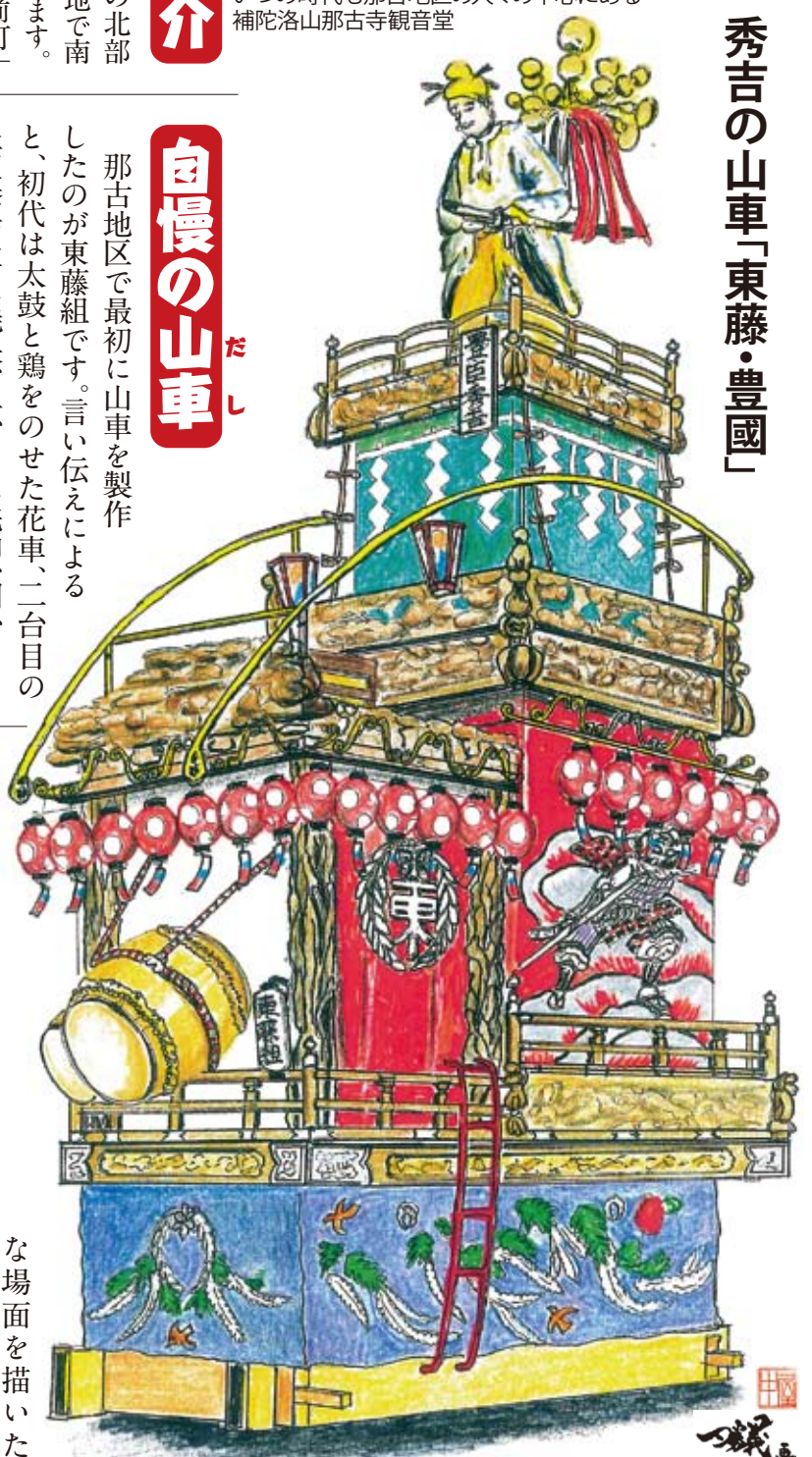
秀吉の山車「東藤・豊国」



昭和11年新調となった東藤組山車

那古地区で最初に山車を製作したのは東藤組です。言い伝えによると、初代は太鼓と鶏をのせた花車、二台目の豊臣秀吉車は焼失、三台目は売却、四台目も焼失し、五台目は屋台であったといわれています。従って現在の山車は六台目に当たります。山車の周りには初代後藤義徳の傑作と言われる、秀吉の幼少期からの出世物語の色々

自慢の山車



刻が施されています。人形は千成瓢箪と豊臣秀吉、幕は豊臣秀吉ゆかりの加藤清正の虎退治の場面を、すばらしい刺繍で表現しています。また、方向転換には梶棒の他に「キリン」という山車を自転させる仕組みが付いているのが特徴です。正面には「豊国」と刻まれた山車扁額があり、囃子台の内の奥には「協力一致」とも彫られ、東藤組の伝統の精神が息づいている自慢の山車です。その威容は山のごとくと云われ、「男山車」とも呼ばれています。



豊臣秀吉の人形

な場面を描いた秀吉一代記「太閤記」から取材した彫刻が施され、また下高欄台輪にも波に千鳥の地彫りや囃子座の全部の柱にも彫